



「大仏師」という称号については。

大仏師は寺院の総本山などから特別に与えられる最高位の称号です。元来、木彫の世界で授与されてきましたが、平成12年2月29日、私達長岡兄弟が「三井寺大仏師」の称号を授与されました。これは日本国内外初となる快挙でした。また平成22年には、皇族ゆかりの門跡寺院にて重要な仏像制作をしたとして、三千院大仏師の称号を兄弟それぞれに頂くこととなりました。このことは50年後や100年後に評価されるのではと信じています。

岡崎の石を使っていますか。

岡崎や豊田から採掘される良質の御影石を9割ほど使っています。他社では外国産の材料を使うところも増えていますが、400年もの伝統産業の空洞化を防ぐためにも、地元の石をできる限り使っていきたいと考えています。

作品の特徴は。

石仏の骨格や筋肉の動きを釈迦の「三十二相八十種好」を基に、人の動きや表情など人体的な勉強も加え、一般の人でも分かりやすく、馴染んでもらえる尊像を目指しています。また、古典的な聖観音作りから離れ、創作で独創性のある観音像や地蔵像作りも行っています。仏像は作業を進めている途中から生命が宿り、呼吸を始めるから不思議です。

海外の博物館にも作品が収蔵されていますが、どういった経緯で海外との接点か。

平成2年に出版された「長岡兄弟仏彫刻写真集（B4サイズ244ページ）」がイギリスの大英博物館に収蔵されたご縁から、平成6年に「董合掌地藏菩薩」が正式所蔵され、現在は5体が所蔵されています。ドイツのサクセン州にある州立ライプチヒ民族博物館へは、平成16年に地藏さんの収

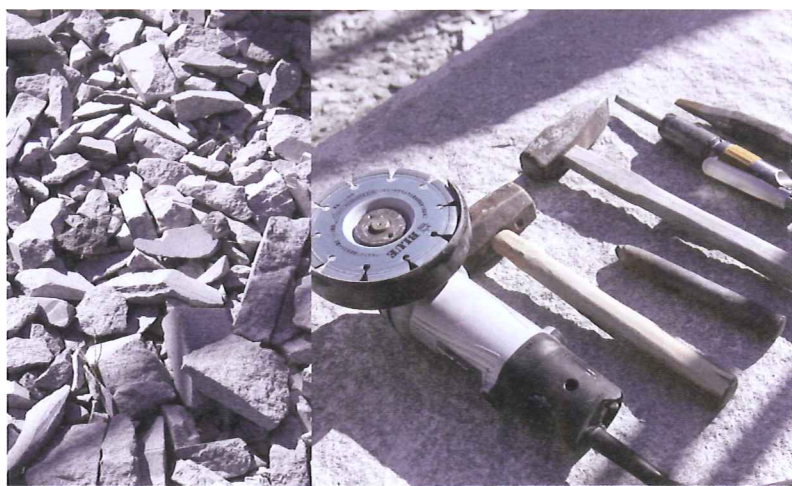
集家・研究家でドイツ人のクレメンス・シユリウーターさんの紹介で4体が収蔵されました。

作品に向かう姿勢、気をつけていることを教えてください。

仏教であらゆる方向を意味する「十方（四方四維上下）」を捉え、より立体的な仏像となるよう心掛けています。作品は太陽の光の下で確認するのが一番ですが、その角度が最適となる時間が一日に15分ほどしかないのです。この短い時間をいかに有効に使うかも重要です。どの面から見ても完成度が高く、最後は慈悲深い姿を表せたら本望です。

今後の展開、夢を教えてください。

日本国内外へ地盤を固め、確かな石仏・石像作りに進進していきたいと思っています。夢は立体



曼荼羅（まんだら）を自分の手で作ること。そして誰も作ったことのない彫刻を創作していきたいです。時には経典の中からイメージして作ることもあるかもしれません。

ながおか・わけい／昭和30年生まれ。石彫刻の世界で初の大仏師。平成2年、パリ「第5回日本の美術展」の第4回秀作版画展に、手彩色版画「慈愛観音」を出品。「ハレ・デ・コングレ賞」受賞（フランス）。平成5年、「第2回岡崎ストーンフェア・歴史の匠展」共進会にて「創作写経大師」が「愛知県知事賞」受賞。平成11年、フランスのリヨン市で「第23回ジャパンウィーク特別企画・日仏芸術2000年祭り」で「1999」にて彫刻部門に「童子地藏菩薩」が「在りヨシ日本名誉総領事賞」と「オーティリアム賞」のダブル受賞（フランス）。平成12年岡崎石製品協同組合連合会主催の「第9回岡崎ストーンフェア」共進会にて「十二面観音菩薩」が「中部通商産業局長賞」受賞。

安藤竜二の目線

例えばニューヨークにある日本のテイストを生かしたレストランでは、日本の伝統工芸品をうまく、オシャレに取り入れていたりします。長岡さんの作品は、そういった場所のエントランスに置かれていても違和感のないもの。多くの人とのお縁から、発信の場が広がることで、石彫刻の世界を広めていただきたいと思います。

あんどう・りゅうじ／昭和46年愛知県岡崎市生まれ。高校卒業後、岡崎市の材木店に入社。社内ベンチャー事業として、家具ブランド「コンチネンタルスタジオ」を設立。平成18年に株式会社DDRを設立。著書に「地元の逸品を世界に売り出す仕掛け方」（ダイヤモンド社）がある。